

令和2年度 庄原市学校図書館研修会

- 日時：令和2年7月3日（金） 14：00～16：35
- 場所：庄原市田園文化センター
- 対象者：庄原市内各小・中学校の図書館担当者26名，学校司書10名

目的

児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を促進する学校図書館づくりについて研修することを通して，学校図書館担当者と学校司書が連携し，図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実を図る。

指導講話 「本県及び本市における読書活動の推進状況について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 砂走 敏和



【指導講話の概要】

- 学校図書館は，学習指導要領や学校図書館法に規定されており，学習指導要領改訂に伴う授業改善の一つの視点として活用することができる。
- 県及び市の読書活動における実態の経年変化から，不読率の増加等の課題を確認する。庄原市として挙げている目標の達成に向け，各学校で意識した活動を推進する。

指導講話 「学校図書館の環境づくりについて」

府中市立図書館 館長 田中 いづみ



【指導講話の概要】

- 仕事は，根拠をもって行うものである。そのために，各学校における学校図書館全体計画の目標から，学校が目指す児童生徒の姿を確認する。
- おすすめ本として，学年に応じて1年間で読ませたい本「〇〇30」としてリストを作ることで，児童生徒の読書量の確保につなげることができる。
- 本の収集方針を策定し，本の除籍を進めることで，学校図書館の新陳代謝を活性化させることができる。

指導講話 「主体的な学びに向かうための学校図書館の利活用について」

読書ボランティア「おはなしのいづみ」 代表 立花 有佐



【指導講話の概要】

- 読書ボランティアは，声をかけられたり，頼られたりすることに喜びを感じる。進んで活用してほしい。
- 図書クイズとして，本のそばにメッセージの入った栗（「～を探そう。」など）を置くことにより，興味をひくことができる。
- 「せいめいのれきし」「いのちのひろがり」「ずっとずっとかぞく」「しろいうさぎとくろいうさぎ」「ほとんど憲法 上・下」を使って，ブックトークをしていただいた。

【参加者の感想】

- ◆ 子供たちに読書活動を進めていく上で，目標やねらいなど根拠となるものが必要であると感じた。本校で根拠となることは何かを今一度見直していこうと思った。
- ◆ ブックトークを通して，本のつながりや本のもつ力について感じる事ができた。また，クイズを栗にするという取組も参考になった。
- ◆ 収集方針・除籍方針という言葉は初めて聞き，今まで計画を立てず本を選定していたと反省した。また，今，子供たちはストレスを抱えている面があるので，本によって心をほっこりさせたい。